

運送業界の健康支援を生きがいに

168 「虫の目」「鳥の目」「魚の目」

物事の見方には、立場の違いで様々な見方があることこの表現として、「虫の目」(近くて複眼的)、「鳥の目」(高い位置から全体を見渡す)、「魚の目」(潮の流れを読み取る)という表現があります。組織でいうと、「虫」は現場サイドで、役職では部長職までといったところでしょうか。次に「鳥」は、社長や幹部の目線でしょうか。「魚」の目は、時代の変化を素早く読み取り最終判断を下す、企業トップが必要な目かもしれません。

◆社長と部下の問答例

4月からスタートした、全ト協の「運輸ヘルスケアナビシステム」を活用した定期健康診断のフォローアップ及びSAS対策セミナー」の全国行脚も、やっと後半に差し掛か

りました。そこで見えてきたのが、参加された方が社に持ち帰り、上司へ報告することの難しさです。立場の違いによる様々な指摘をクリアし、社内でのコンセンサスが得られなければ、対策の一步を踏み出せないという、現実的な課題として見えてきました。そこで、参加者の「よく理解できた。よし、運輸ヘルスケアナビシステムを活用して、当社でも健康対策をスタートしよう」との思いをぜひ後押ししたいと、鳥や魚の目を持つトップや上司の目線からの問答例をまとめました。例えば、社長から、

Q1. 全ト協の半額負担が

あっても1人1000円とは高くないか？

Q2. 費用対効果が期待できるのか？

Q3. 運輸ヘルスケアナビシステムから何が見える？

Q4. 社員はそれで健康になるのか？

Q5. フィードバックや活用はどうするんだ？

Q6. 産業医がいるから必要なのでは？

Q7. システムや受託法人の信頼性はどうか？

Q8. 健康経営や監査に活用できるのか？

Q9. 高齢者の雇用延長の参考になるのか？

Q10. ドライバー不足の解消に繋がるのか？

などの問いや指摘を受けても、問答例では現場サイドが受け答えできるようにまとめています。これら難題や期待に応じられるのが、運輸ヘルスケアナビシステムを活用した定期健康診断のフォローアップ事業です。希望者には問答例を無料で差し上げますので、ぜひご覧になって下さい。

(次回は7月8日号に掲載)



《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>